

# Mint Club



©Tezuka Productions · SPEJ



独立行政法人造幣局

# 独立行政法人造幣局への 移行を記念した貨幣セット

「鉄腕アトム誕生記念プルーフ貨幣セット」などを販売



鉄腕アトム誕生記念プルーフ貨幣セット  
13,000円（税込）

2003年4月1日から造幣局は、「独立行政法人造幣局」として新しく生まれ変わりました。

その記念すべき第一歩となる製品が、2003年4月7日に誕生した鉄腕アトムを記念する貨幣セットです。

鉄腕アトム誕生記念セットなど5種類の貨幣セットのお申し込み受け付けを5月12日(月)～26日(月)までの15日間行いましたところ、多数のお申し込みをいただきました。特に鉄腕アトム誕生記念プルーフ貨幣セットは、お申し込み数が販売予定数を大幅に上回ったことから、少しでも多くのお客様の要望に応えるため販売数を70,000セットから90,000セットに増やすとともに、平成15年6月12日に造幣局構内において抽選会を行いました。お申し込み数は448,436通で、当選倍率は5.18倍でした。

抽選を公正公明に行うために手塚プロダクション代表取締役社長と宝塚市立手塚治虫記念館館長にお願いしました。

なお、当選された方々には、6月下旬頃から順次払込用紙を送付しております。製品につきましては、7月上旬頃からの発送を予定しております。



# 奄美群島復帰50周年 記念貨幣を発行

本年12月25日で奄美群島復帰50周年を迎えることから、これを記念するための貨幣が発行されることになりました。

今回の記念貨幣は、我が国で初めて貨幣に彩色を施し発行された第5回アジア冬季競技大会記念貨幣に続き、彩色を施した記念貨幣となります。

貨幣の表は、奄美大島周辺に生息し、天然記念物に指定され、鹿児島県の県鳥でもある「ルリカケス」及び奄美群島に自生し、農産品としての栽培も盛んな「テッポウユリ」で構成されています。

裏には奄美群島を構成する奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、喜界島、徳之島、沖永良部島及び与論島の島がデザインされています。



表



裏

貨幣の概要は以下のとおりとなっています。

## 奄美群島復帰50周年記念 千円銀貨幣

| 額 面 | 素材・品位 | 重 量    | 直 径  | 仕 様    | 発行枚数 |
|-----|-------|--------|------|--------|------|
| 千円  | 純銀    | 31.1 g | 40mm | プルーフ仕様 | 5万枚  |

今回の記念貨幣は、その製造に要する費用がその額面価格を超えるもので、造幣局が額面価格以上の価格で販売するいわゆるプレミアム型の記念貨幣となっています。

金融機関などの窓口における引換えは行われず、別途政令で定められる価格で造幣局が販売します。申込方法及び受付期間等の販売要領につきましては、今後発表する予定です。

# カラー印刷技術について

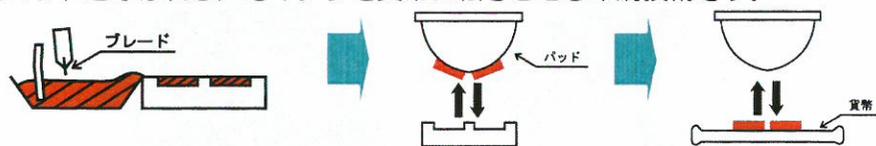
## 1. 日本で初めてのカラー貨幣

近年、諸外国では意匠性を付加するなどの目的のために、着色した貨幣（カラー貨幣）の発行が盛んになっています。造幣局でも、貨幣や金属工芸品等への様々な着色方法について、量産化を目指した研究開発を行っています。

その成果として、青森で開催されたアジア冬季競技大会の記念貨幣に、日本の貨幣として初めてカラー印刷を施しました。今回は、初のカラー貨幣に施したパッド印刷技術について紹介します。

## 2. パッド印刷技術

カラー貨幣を制作する方法として、パッド印刷技術を応用したもので、デザインに応じた凹版を色ごとに作成し、凹版のへこみにインクを流し込み、ブレードで余分なインクを取り除いたのち、お椀のような形状をしたシリコンゴム製のもの（パッドと呼ばれる）でインクを貨幣に転写させる印刷技術です。



## 3. 色の表現方法の違いによる2種類のパッド印刷方法

パッド印刷技術には、色の表現方法の違いによって、大きく2種類の方法があります。1つ目は、あらかじめ調合した単色の組合せで色を表現する方法で、日本初のカラー貨幣である、アジア冬季競技大会の記念貨幣の印刷に利用しています。

2つ目は、色の三原色などを用いて、網点の数や大きさで色彩や濃淡を表現する方法（網点印刷）で、奄美群島復帰50周年記念貨幣はこの技術を利用して製造することとしています。

## 4. まとめ

パッド印刷技術は、大量生産に向いている技術である上、2種類の印刷方法の組合せ方や、使用するインクの工夫などで、色々な応用の可能性を秘めた技術であり、インパクトのある新製品開発へ寄与できるよう、さらに研究開発を進めているところです。



アジア冬季競技大会

## 造幣博物館所蔵・外国章牌紹介 5



縮小  
写真



A | B

- A. ルイ十五世肖像。造幣局竣工記念牌、表。 B. 全左、裏。二段覆輪にパリ造幣局の正面フランス造幣局製。青銅。直径64.1mm。重量107g。

三段覆輪にルイ十五世の右向肖像。ラテン語で「LUDOVICUS XV・REX CHRISTIANISSIMUS（ルイ十五世、キリスト教國國王）」の文字。下部に小さく「C. N. ROËTTIERS FILIUS F.」の署名がある。

ルイ十五世（1710～1774）（在位1715～1774）はルイ十四世の曾孫。幼くして即位し、攝政を立てたので、親政は1743年からである。

此の章牌はルイ十五世の治世中の大きな行事を記念するメダルのシリーズの中での、造幣局廳舎の建設を記念したものである。それ迄川向うのルウヴル宮殿の中にあつた造幣局が廳舎竣工により現在地へ移つて来たのである。原型彫刻はシャルル・ノルベール・ロティエ・ジュニアである。ロティエ家はフランドル地方から出た貨幣・メダル彫刻家の家系で一族の大部分はロンドン造幣局で働いたが一部がパリ造幣局へ移り、パリ造幣局にも何人かのロティエ姓の者が居たのである。

此の章牌は變色が甚だしいが彫刻は表裏共にシッカリした佳品である。

上縁部にラテン語で「AURO ARGENTO AERI FLANDO FERIUNDO（金、銀、銅貨の製造）」の文字。下部弦月形の中にラテン語で「ÆDES ÆDIFICATÆ MDCC LXX（廳舎竣工1770年）」の文字。小さく「C. N. ROËTTIERS FILIUS F.」の署名。

パリ造幣局はセエヌ左岸コンティ河岸、セエヌ河を隔ててお向ひにルウヴル宮殿、目の下にシテ島の下流端のヴェエル・ギャラン公園、右前方にボン・ヌフ、右手にノオトルダム寺院を望む景勝の地にある。建物も周囲の状況も此の章牌が作られた時と殆ど變つてゐない。設計コンクウルに入選したジャック・ドニ・アントワヌ（1733～1801）により1768年に起工された。新古典主義の様式で一貫された建築史上でも有名な作品である。セエヌ河に面した正面は幅百二十米あり、中央の張出し部分は六本の太圓柱で飾られ、方形の屋階には多くの寓意立像がある。

今は正面屋上に常にフランス国旗が掲げられてゐる。

（元工藝管理官 松岡 隆範 記）

（本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。）

# 造幣博物館

貨幣に刻まれた時代のメッセージから歴史の足音が聞こえます。  
さあ、貨幣探検に出かけましょう

造幣博物館は、明治44(1911)年に火力発電所として建てられた建物の内部を改装し、外観も当時の面影をイメージしたレンガ造りとして、昭和44(1969)年に開設されました。

造幣局は、明治4(1871)年4月に純正画一な貨幣の製造を行うため大阪の地に創業し、わが国における近代工業の発展に寄与するとともに、西洋文化の導入に貢献してまいりました。

館内に展示している約4,000点の史料等をご覧いただきながら、造幣局創業時の貴重な資料、貨幣の歴史、貨幣と社会の関わりなどを学んでいただければ幸いです。

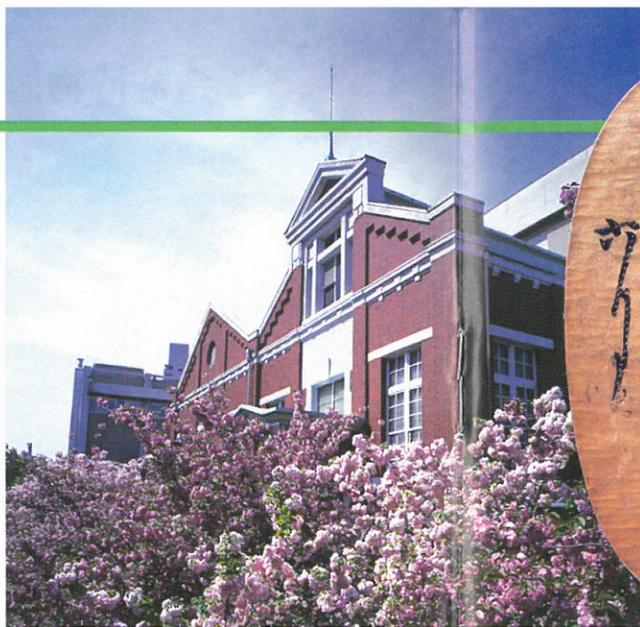
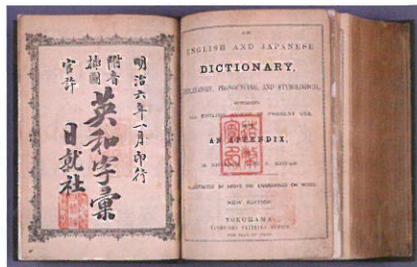


## ● 天秤

明治9(1876)年に工作方大野規周が製作した天秤で、金貨など製造貨幣の重さを量るのに使用され、この形式の天秤は、貨幣大試験で使用されています。

## ● 附音挿図 英和字彙 (英和辞書)

明治6(1873)年横浜の日就社から発行されたもので西洋式活版技術により国内で最初に印刷された大型辞書(5万5千語収録)で、中に500こくちもくはん余の木口木版の挿絵(日本初)を入れた画期的な活版・洋装の豪華本であり、日本の英語辞書の歴史を語るうえでは、欠くことのできない貴重な書です。



## ● 竹流金

昭和10(1935)年夏に大阪淀川(大川)でシジミ取りをしていたお爺さんが川底から拾い上げたユニークな金塊。

実物は造幣博物館だけという貴重なコレクションです。



## ● 大時計

明治9(1876)年6月に工作方大野規周が製作し、工場の正面に取り付けられていたもので、定刻に鐘を鳴らし、局内に時刻を知らせていました。

## ● 天正菱大判

豊臣秀吉が造った豪華な大判。現存数が極めて少なく非常に貴重な大判とされています。



所在地 〒530-0043  
大阪市北区天満1-1-79  
(TEL 06-6351-8509)

開館時間 9時30分～16時30分  
(入館は閉館の30分前まで)

休館日 土、日、祝日、年末年始  
(都合により臨時休館することがあります。)

入館手続 予約の必要はありませんが、正門詰所で手続きをしてください。

入館料 無料

交通 京阪電車「天満橋駅」下車、徒歩15分  
地下鉄谷町線「天満橋駅」下車、徒歩15分  
地下鉄堺筋線「南森町駅」下車、徒歩15分  
JR東西線「大阪天満宮駅」下車、徒歩10分  
JR環状線「桜の宮駅」下車、徒歩15分  
市バス「桜の宮橋」下車すぐ

また、造幣局では工場を見学することもできますが、予約が必要となりますので、見学予定日の2ヶ月前の月の初めより10日前までに、TEL 06-6351-6150(事業案内係)へお問い合わせ下さい。

館内では貨幣セットやメダルなどの金属工芸品を販売しています。  
ご来館時にお立ち寄りください。

# バーゼル・ワールドマネーフェア 2003



去る1月31日（金）から2月2日（日）にかけ、スイス・バーゼルにあるコンベンションセンターを会場として、バーゼル・ワールドマネーフェア2003（World Money Fair、WMF）が開催されました。わたしども造幣局からは、筑紫局長（当時）以下6名が参加し、製品の展示や即売、海外ディーラーとの商談などを行いましたので、その模様をご紹介します。

## 1. バーゼル・ワールドマネーフェアとは

バーゼルは2月頃開催される時計の国際見本市で有名ですが、それに先立つ毎年1月末頃、ワールドマネーフェアは開催されます。ドイツのコレクターコイン情報専門誌MünzenRevue編集長A・M・ベック氏が率いるWMF事務局が主催し、今年で32回目を数えます。

当初、このフェアはコインコレクターによるコレクションの交換の場として始まりました。1981年に、国の貨幣製造機関としてカナダ造幣局が初めて参加してからは、他の造幣局や貨幣製造機械メーカーなども加わって現在に至っています。また、コイン・ディーラーだけでなく、子供から大人まで、ヨーロッパ中から多くの方が訪れる敷居の低いマネーフェアとなっています。

また、その年に開催される最初の国際マネーフェアであることから、各国の造幣局は、その年の新記念貨幣等を、一般客や貨幣ディーラーに初めて紹介する機会として積極的に利用しており、他の国際マネーフェアよりも重要な位置付けがなされています。



## 2. フェアの模様

本年は40カ国から合わせて194の造幣局や企業が参加していました。わたしども造幣局も、1998年から展示ブースを用意し、日本の貨幣セットや金属工芸品を販売しています。また、記念貨幣や検定事業の紹介も行ってきたほか、世界造幣局長会議への積極的な参加・取り組みなども、このバーゼル・マネーフェアを通じて全世界に発信し続けています。

そして今回は、日本初のカラー貨幣である「第5回アジア冬季競技大会記念貨幣」に加えて、海外販売を見据え、鉄腕アトム誕生記念メダルを組み込んだ貨幣セットを検討していることをフェア初日にメディア・フォーラムで紹介した他、当局ブースでも紹介しました。

当局ブースでは、子供から大人まで、アジア大会記念銀貨とともにアトムの勇姿に見入る姿が見受けられました。海外貨幣ディーラーの中にも日本の貨幣セットに強い関心を寄せる業者が増えてきていることも実感できました。

もちろん、各国の造幣局も様々な趣向を凝らした記念貨幣や貨幣セットを紹介していました。例えば本フェアの今年の名誉招待国ベネルクス三国（ベルギー・オランダ・ルクセンブルク）は、昨年1月から流通が開始され、ヨーロッパの貨幣収集家の間では今なおブームとなっているユーロ貨幣の共同セットを紹介し、また、ドイツの大蔵省は2006年ワールドカップサッカー大会の記念貨幣を早くも発表していました。

今後、わたしども日本の造幣局も、海外の貨幣セットに負けない魅力ある製品を、こういったバーゼル・マネーフェアなどの国際コインコンベンションを通じ、継続的に世界で紹介することにより、世界の収集用貨幣市場に参入していきたいと考えています。皆様の温かいご理解、ご支援を、何卒よろしく願いいたします。

参考：バーゼル・ワールドマネーフェア・ホームページ（ドイツ語・英語）  
<http://www.worldmoneyfair.ch/>

# 2003 桜の通り抜け貨幣セット

# COIN DESIGNING INNOVATION

THE MOST EXCELLENT WORK OF INTERNATIONAL COIN DESIGN COMPETITION 2002



**平成15年銘桜の通り抜け貨幣セットのご案内**

桜の通り抜け貨幣セットは、行事用貨幣セットとして、例年通り抜け期間中に会場において販売させていただいているものです。今年度は、在庫がありますのでご案内いたします。

ご希望の方は、同封のはがきでお申し込みください。後日こちらから払込用紙をお送りします。

価格は1,900円(税込)、送料は着払いとなります。

お申し込みは、7月14日(月)必着でお願いいたします。

## 平成15年7月~9月の貨幣セット販売予定

| 販売区分      | 種類             | 販売予定価格  | 販売予定時期 | 参考          |
|-----------|----------------|---------|--------|-------------|
| 通信販売貨幣セット | ミントセット         | 1,800 円 | 9月以降   | 214,800 セット |
| 通年販売貨幣セット | 記念日貨幣セット       | 2,100   | 販売中    | 7,000       |
|           | 〃(録音機能付)       | 3,000   | 販売中    | 2,000       |
|           | ペーパーウェイト       | 4,000   | 8月以降   | 6,000       |
|           | ジャパンコインセット(フル) | 2,000   | 7月以降   | 4,000       |

注1: 数量、時期については、予定ですので変更する場合があります。  
 注2: 参考欄は、14年度製造数量です。  
 注3: 貨幣セットに関する情報は、インターネットでもご覧になれます (http://www.mint.go.jp/)

Theme: East and West, reciprocal influences on Art. Reciprocal influence on Eastern and Western art suggested the design of this coin. In the XVI century, devotional artistic practices began to spread in Japan through trade and missionaries' activity, and in the XVII century also western texts on figure and proportion (of numerous of every kind of western art). For example, Shimomura Kōzan merged western realism with the traditional techniques of Nipponese art. For example, on the other hand, first influences of Western painting began with Impressionism that is when first Japanese artists, especially in Paris at the beginning of XIX century. This century Nipponese thing, clear and uniform, constitutes a real revelation for western artists. For example, Gauguin, who try to escape from academicism.

On the lower part of coin's reverse, I reproduced a photograph of Tohshōji Shōraku named 'Our of Kinkaku-ji' (1784), and on the upper part I reproduced a work of Honoré Daubigny named 'Rapids and Swains' (1864), inspired to Meiji fashion country.

On the lower part of coin's reverse, I reproduced 'Osaka bridge under the rain' (1857), from the upper part I reproduced a work just of 'Y'. The works I represented on the same side of it are confronted in their original form, and their stylistic.



メダル仕様  
 材質: 純銀  
 直径: 30 mm  
 重量: 13.5 g  
 仕上: 銀いぶし仕上

## ICDCメダルのご案内

ICDCとは、国際コイン・デザイン・コンペティションの略です。このコンペティションは、国内のみならず広く海外から貨幣のデザインを募ることにより貨幣デザインの芸術性の向上を目指すために平成10年から開催してきております。この度、2002年のコンペティションにおいて最優秀賞に選ばれた作品をメダル化し販売いたします。

- お申し込み要領
- 同封のはがきに必要事項をご記入のうえお申し込みください。後日こちらから払込用紙を送付いたします。価格は3,500円(税込)、送料は着払いとなります。
- 入金されてから、製品をお届けできるまで2ヶ月程度要する場合がありますので、予めご了承ください。
- お申し込みは、7月14日(月)必着でお願いいたします。

発行所 独立行政法人造幣局

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号

電話 06 (6351) 6928

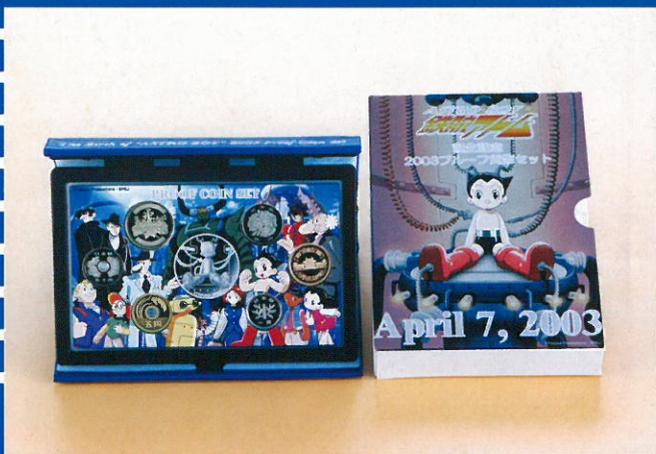
造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>

編集兼発行 事業部事業企画課顧客サービス室

平成15年6月25日発行 (第5号)

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています





©Tezuka Productions • SPEJ



*Japan Mint*